

<b>Title</b>	人間福祉 スーパービジョンセンター発足会 (総合研究所 News)
<b>Author(s)</b>	聖学院大学総合研究所
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.18-No.2, 2008.9 : 27-28
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4767">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4767</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

# 総合研究所 News

## 人間福祉 スーパービジョンセンター発足会

2008年4月1日に総合研究所の人間福祉学研究センターに「人間福祉スーパービジョン・センター」が設けられた。

その発足を記念する講演会、シンポジウムが発足に先立って3月1日（土）午後2時から、新都心ビジネス交流プラザ4階セミナー室Bを会場に開催された。第一部は、聖学院大学大学院人間福祉学研究科の柏木昭教授により「スーパービジョンとは何か」という主題で講演がなされた。

柏木教授は、「スーパービジョンの目的は、福祉関係の職務に携わる職員の力量を開発し、より専門性を発達させて福祉サービスをうける人々へのサービスを向上させることである」と定義された。

いま福祉の現場は、多様化する福祉サービスに対するさまざまな要望、期待などのすべてに応えられず、働く人々の過酷な労働を強いられている。スーパービジョンセンターの働きはそこで働く人々に対するカウンセリングであり励ましであることは間違いないが、柏木教授は、敢えて「スーパービジョンの目的は、私たちの常識の枠組みを越えて、福祉サービスを受ける人々自身の思いに沿うかわかりが持っているかどうかの点検である」と講演を結ばれた。

プログラムの第二部は、聖学院大学人間福祉学部の卒業生で福祉施設に働く方々がパネリストになり、「今、実践のなかでこまっていること、そしてスーパービジョンセンターに期待すること」というテーマで報告とディスカッションがなされた。卒業してから2から6年の経験により、高齢者福祉施設、あるいは病院で働く中で見えてきた現実を率直に語り合った。参加者の多くはやはり福祉施設で働く卒業生であり、共感をもって受け止めて議論に参加していた。

第三部は、「人間福祉スーパービジョンセンタ

ー」の活動の説明とスーパーバイザーの紹介であった。

その後、会場を聖学院大学教室に移して、懇親会が開催された。そこでは参加した方々の自己紹介とスーパービジョンセンターへの期待がこもこも語られた。参加者アンケートにも記されたいくつかの意見を以下に紹介する。

\* \* \*

- ・研修会等に参加することで、情報の収集や新しいネットワークづくりの場として活用していきたい。
- ・人が集まる条件として、①場の確保、②集まる人の共通項、があると思います。その条件を揃えてくださりありがとうございます。今の私は“スーパーバイザー”としてですが、いずれ経験が増え、受けてきた事を継ぐ時が来ると思います。“スーパーバイザー”の自分も将来、見据えて参加できたら良いと思います。
- ・ぜひスーパービジョンを利用したいと思います。家から遠いことでなかなか都合がつきにくいのが残念です。研究交流会のように土日祝日の開催はありがたいです。
- ・スーパーバイザーの方々をはじめ、みんながセンターを作り上げていけるように力を合わせていきたいです。人材育成のためにもセンターの今後に期待しています。



柏木昭教授による講演

- ・話を聞いて一緒に考えてもらい、成長できるような場と、個別だけでなく、集団で学ぶ機会もあるので、ネットワークを広げられるような場、交流会などで情報交換ができるような場として利用していきたい。
- ・制度と法人や倫理の間で揺れ動くことや悩みを感じる事が多くあります。できればどこにいても、いつからでも参加できることを希望します。
- ・誰でも気軽に参加することの出来る場になればと思います。
- ・ネットワークを広げたり、関係者同士のつながりを深めるためにも、研修交流会を期待しています。
- ・研修などを希望します。
- ・専門職として、人としての成長。
- ・大学と福祉現場のつながり、卒業生同士のネットワークの場として機能することを期待します。
- ・自分自身、経験が浅いのに室長になってしまい(現在退職している)、先輩などの指導を受ける機会がなかったので、この様なセンターが発足し、心強いばかりです。私のような悩みを持つ方々も多いと思うので、センターを利用し、多くのスーパーバイザーを輩出して頂きたいとおもいます。
- ・現場での情報交換。
- ・長く愛されるセンターになることを願っています。
- ・関係者でもさらに参加しやすくなる様、費用を下げただけだとありがたいです。
- ・施設内や、身近なところにスーパーバイザーがいないワーカーはたくさんいると思います。そんな人たちがいつでも来られるように敷居の低いものであって欲しいです。
- ・卒業生同士の交流の場を希望します。情報交換できれば幸いです。



卒業生によるディスカッション